



複製・木版【版画・院1年 杜松園】

KINO PRESS KYOTO SEIKA UNIVERSITY NO.34

木野通信 第34号 2001年3月10日発行
京都精華大学文化情報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL / 075-702-5343

木

それでもなお、 国際主義を語らなければならない

この半世紀間、制度としての日本の大学がたどってきた道程を振りかえってみれば、それは国境のなかに閉ざされた存在であったといわれてもしかたのないところが目につきます。もちろん、研究者としての大学の教員には、他の国の大学で学んだり他の国の研究者と共同したりする人たちの割合が比較的多かったにちがひありません。とくに研究の対象が他の国の事情である場合には、これは当然であったかもしれません。しかし、こうした研究者としての大学教員の国境を超えた活動がありえたのは、日本の大学制度が外国に向かって開かれていたからというより、その理由はさまざまあっても他の国々が日本からの学生や研究者を受入れてきたからだったといったほうがよいように思えます。

他の国の研究者や留学生の日本への受入れについては、この閉鎖的な傾向はさらに強く、国際社会のなかでの日本の経済的な優位性にずっとおくれ、ようやく最近になって受入れ政策が始動しはじめた印象です（ただし、教員や研究者の受入れよりも、留学生の受入れという方にずっと大きな比重がおかれているように思えます）。大学制度と書きましたが、大学の慣習といったほうがよいものまで含めてのことです。そして、この大学の慣習は、より広い社会の偏狭な内向きの精神風土を色濃く反映していたこともまちがいないでしょう。

一方日本の大学教育がその対象としてますます多く受入れてきた若い人たちのあいだには、学校でのイジメに端的に表されるような閉塞的な社会状況、また教科書の文字どおりの暗記に限定され思考の広がりを励ますことのない教育の閉塞的な状況への不満が蓄積されてきたのではないのでしょうか。経済社会が有無を言わずグローバル化するなかで、実質的に国境のなかに閉じこもりがちな大学のこの制度的・慣習的な障壁と、若い人たちの閉塞感とが重なりあって、今日の文化の危機を形作っているかのように思えるのです。

京都精華大学は32年まえの開学当初から、「日本と世界に尽くそうとする人間の形成」という岡本清一初代学長の言葉に集約される国際主義を、その教育理念のひとつとしてかかげてきました。たしかに、芸術・人文の両学部への留学生の受入れや交換プログラムなどの実現によって私たちの大学の国際主義は多くの他大学に先行してきました。そのことのために多くの教職員が想像を超える努力をしたこともまだ記憶に新しいところです。それでもなお、立ちどまることはできないのです。文化的危機を眼前にして国際主義をかかげる大学が有為に生き残っていくには、従来の制度や慣習から十分に脱却しているとは言えないという自覚が私たちにはあり、物心両面でより一層の改革へと踏み込んでいかなければならないように思えるのです。

新世紀の入り口に向かおうとする大学の可能性は、なににもましてその国際性の発揮にあると考えられ、京都精華大学はそのための大きなポテンシャルをもっていると信じられるからです。

[学長 中尾ハジメ]

野

通

信



京都精華大学における

国際主義

「国際」を冠する学部や学科が乱立するように誕生したのはいつの頃だったか。また校名に「国際」のつく大学もいくつかある。それらの学部・学科や大学はその後どんな展開をみせているのだろうか。

この京都精華大学では創立以来、「国際」的雰囲気を感じる場面は少なくともなかった。国際交流や外国大学との提携もそれなりに増えてきた。とくに人文学部における海外フィールドワークの意味は大きかったと思われる。創立30余年を迎えている現在、この大学の「国際主義」はどんな状況にあるのだろうか。

元学長柴谷篤弘は「わたしにとって『国際化』とはなにか」(「木野評論」24号。1993年3月発行)において、文部省岡本薫氏の全関西私立大学振興協議会第21回例会での講演を次のように紹介している。

「国際化 internationalization」という表現は、国際的には企業の多国籍化を意味するのだそうである。従って「大学の国際化」をそのまま日本式に英訳すると、変なジャパニーズ・イングリッシュになる。現在はこのおかしな事実さえも「国際化」してしまって、日本人が internationalization といえば、それは日本特有の、多国籍企業外の意味あいをもつ、ということが国際的に了解されている、ということになっている。

——ついで柴谷はeticエティックとemicイミミックで代表される、比較文化の二つの類型を援用して次のように述べる。

私はそれを当時直感的に、問題は日本が国際化するのか、それとも日本を国際化するのか、ということだととらえていた。前者はたとえば「国際化」の意味を真に国際的にとらえることであり、従ってエティックであるのに、後者はいまの日本あるがままを、世界全体に通用し、うけいられるようにすることで、そのことによって日本が変わる必要はすこしもない。(略)

いまこのイミミックを大学にあてはめるとどうなるであろうか。現在あるがままの日本の大学は、国際化のために模様がえをする必要はなく、そこに適合すべき外国人は、自らを変えて適合の目的をはたさねばならない。外国に対しての発信は、現在あるがままの日本(略)を紹介してあげばいいのであって、カリキュラムもそういった日本紹介型発信と、そうした発信者の養成を目的とすればよい。……

このような形で大学の「国際化」をするには、教員に外国人を加えても、明らかな差別を加えることに、本質的にためらいはないのであろう。(略)わが国の全大学(短大を除く)外国人専任教員の数は全教員数の1.8%にすぎず、国立大学ではさらに低くして1.1%であるという。しかもこのなかでの正規教員の数はわずかに0.24%となる。(「IDE」335号22ページ 大崎仁) (略)

日本の学会で外国人が会長になる、という事態が想像できなければ——つまり京都精華大学で外国人の教員が学長になることが想像できなければ、わが大学でも本音はやはり国立大学なみなのかもしれない。(略)

これに対して日本が「国際化」する、つまりエティック国際化を大学にあてはめるとどういうことになるか。それは明らかに「国際」ではなく、「大学」に照準をあてることになるだろう。まずは、国際化とか日本とかいう概念は忘れて、大学とはいかにあるべきか、を考えるべきであろう。……望ましい大学に必要な条件を、徐々にではあっても作りあげてゆけば、多くの学者・研究者・教育者はそこで働きたくなるだろうし、多くの若者はそこで学びたくなるだろう。大学の努力が、立地する日本の制約をこえるようになれば、そこに集まる人々は、日本人とは限らない。人々は世界のあらゆる国から集まるだろう。

……現実には…、日本に自然科学者が来て仕事をすれば、本国での経歴に傷がつく場合がまだ多いようだ。この点で美術や人文学は事情がずっと有利で、ここにわが精華大学の出番があるのであろう。——

さて「表題」は「国際主義」である。それは「国際化」と同じなのか、あるいは違うのか。

京都精華短期大学(京都精華大学の前身)初代学長岡本清一は、設立にあたって、「教育の基本方針に関する覚書」を提示した。その内容をいくつか挙げてみよう。

①京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。

②京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行なわない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。

⑦かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

また、1968年の京都精華短期大学の発足にあたって、自由自治・人間形成・凝集教育とならんで「国際主義の教育」を掲げている。1974年には「朝鮮語」が第二外国語としてカリキュラムに組み込まれた。短期大学では唯一であったが、四年制大学でも、外国語大学を除いて、きわめて稀少であったことは記しておくてもよい。

さらに、1989年の京都精華大学人文学部の発足にあたって、「学際主義」「体験主義」とならんで「国際主義」を掲げている。

こうして振り返ってみると、京都精華大学は一貫して「国際主義」を掲げてきたといえる。そして「国際主義」を、世界に通用し受けいられるエティックな「国際化」を図る考え方ととらえるな

らば、それらは同義語と考えてよい。

ここで「国際主義」について、外国(人)との接触あるいは交流という観点から、具体的に点検してみよう。

外国人教員

開学2年目の1969年に1名(アメリカ人)、以降、1973年1名(在日韓国人)、1978年1名(イギリス人)、1980年1名(アメリカ人)、1982年1名(タイ人)、1989年1名(オーストラリア人)、1990年1名(アメリカ人)、2000年2名(アメリカ人・韓国人)を専任・正規教員として採用している(うち1名は高齢のため退職)。現在専任教員は98名であるから外国人教員の割合は約8%である。柴谷が示した数字より高いとはいえるが、学長はまだ出していない。

非常勤講師については、従来から語学を中心に一定数の外国人がいたが、現在は30名程度である。

留学生入学者数推移表

	[1980～89年度]										[1990～本年度]										
	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00
韓国	1	-	2	2	-	1	1	-	-	3	3	2	4	10	11	41	-	7	7	10	13
台湾	3	2	2	1	-	2	1	3	2	-	1	2	-	3	2	1	-	2	4	3	11
中国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	3	-	1	4	3	5	10	17	14	32
インドネシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	4
ベトナム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2
フィリピン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
マレーシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
ミャンマー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
スリランカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
インド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
タイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ロシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
イギリス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
年度別総数	4	2	4	3	0	3	2	3	2	4	9	7	5	14	17	10	6	20	28	38	65

ちなみにいくつかの大学の外国人留学生数は次の通りである(京滋地区私立大学学長懇談会資料。2000年5月1日現在。大学院・研究科等は除く)。

関西大学167名、関西学院大学165名、同志社大学51名、立命館大学305名、龍谷大学170名である。全学生数に対する比率をみると、京都造形美術大学が58名で4.43%で、他の大学は2%以下である。

振り返ってみると、1985年頃までは外国人留学生に対する制度はほとんど何もなかった、とあってよい。教職員何名かがいわばボランティアで、保証人の引受、ビザの取得、日本語の教育、その他生活全般にわたってフォローしていた。現状は、まだまだ多くの問題が残されているが、奨学金制度・授業料等の減免・住居の保障・現

外国人留学生

開学後の10年間は、2年目の1969年、台湾から1名(母親が日本人)が入学したのと、1977年・1979年に韓国から各1名が入学したくらいであるが、1980年以降については次表のとおりである。

1980年代の台湾・韓国、1990年代の中国についてはそれぞれの国の経済発展が反映しているように思われる。また1999年および2000年の中国・台湾・韓国の増加と出身国数の増加には理由がある。それは2000年4月に開設した環境社会学科とマンガ学科が「社会人・外国人留学生・海外帰国子女」条項に基づいて認可されたことにより、定員の30%を彼らで満たす必要があり、主たる募集対象が外国人留学生であったことである。

現在外国人留学生数は、学部生・大学院生合わせて151名で、全学生数の5%程度を占める。上記両学科の完成年次には250～300名となり、物理的にも一定の存在となる見込みである。

フィールドワーク

1989年人文学部が発足し、1期生が3年生になった後期から海外フィールドワークが始まった。対象国はアメリカ・オーストラリア・タイの3カ国である。期間は基本的に4カ月であるが、対象国での滞在を1～2カ月延期したり、帰路いくつかの国を周るケースも少なくない。

参加学生数は、平均すると、アメリカ11名、オーストラリア13名、タイ19名である。学生は提携先の大学をベースにして、それぞれのテーマに従ってフィールドワークを行うが、いろいろな形でその国の文化や人に触れ、インパクトは大きいようである。とくにタイの場合、のちに留学先となったり、また当該国あるいは当該国に関連する企業・仕事につながっていく

ケースもある。

国際交流・交換制度

現在協定を結んでフィールドワークや学生の交換などを行っている外国の大学は次の通りである。

[アメリカ]

人文学部ではアンティオーク大学、コーネル大学(アイオワ)、芸術学部ではミシガン大学(美術学部)、南カリフォルニア建築大学。

[イギリス]

人文学部ではランカスター大学、イーストロンドン大学、芸術学部ではグラスゴー美術大学。

[オーストラリア]

人文学部ではラトローブ大学、芸術学部ではオーストラリア国立大学キャンベラ美術校

人文学部では、その他タイのチェンマイ大学、中国の南京師範大学、韓国の水原大学と協定を結んでいる。

協定の内容は長期・短期、1～3名の単位・グループの交換、単位の相互認定の有無など多様であるが、成果は着実にあがっていると言いたいだろう。ただ、いろいろ事情があるのだろうが、教員の交換は活発とはいえない(サバティカルの形で協定校以外の大学に留学するケースのほうが多い)。

以上国際主義(国際化)に関連するいくつかの項目についてその経過を追ってみた。

数字や交流・交換の状況を見る限り、一定の評価は与えられるだろう。しかし外国人の専任教員は10%に満たないし、外国人留学生の数こそ急速に増加していてもそれに対する関心が高いとは思えない。本学教員であった故稲浦嘉頼氏がかつて、留学生の数が十数名から数十名の頃、「留学生がいることの意味を全学的に考えなければいけない」と、折に触れて話していた。

現在でも基本的に状況が変わっているようには思われない。実際、一部をのぞいて、日本人学生の留学生に対する意識や関心は低いし、関係を持つとする意欲も高いとはいえない。教職員についても同様だろう。むしろ、とくに学生については、ファッション・音楽・旅行などをのぞいて、外国に対する関心は低下しているように思われる。そもそも明確な考えや方針に基づいて「国際主義」が遂行されてきた、とはいえない。したがって、ある種の調査やデータもない。

柴谷は「国際化とか日本とかいう概念は忘れて、大学とはいかにあるべきか、を考えるべきだ」と言った。その意味では京都精華大学はまだスタートラインに立っていないのではないのか。外国人留学生・教員を含め、大学の「資産」は何なのかを見極め、「望ましい大学の条件」を創りあげることが求められている。(S)

21世紀へようこそ。

【学生アンケート】

105人

※名前のあとのアルファベットはそれぞれ次の学科・分野を示します。

- ①…人文学部/人文学科
- ②… / 環境社会学科
- ③…芸術学部/造形学科・洋画
- ④… / ・日本画
- ⑤… / ・立体造形
- ⑥… / ・版画
- ⑦… / ・陶芸
- ⑧… / デザイン学科・ビジュアルコミュニケーションデザイン
- ⑨… / ・プロダクトコミュニケーションデザイン
- ⑩… / ・映像
- ⑪… / ・建築
- ⑫… / ・テキスタイルデザイン
- ⑬… / マンガ学科・カトウマンガ
- ⑭… / ・ストーリーマンガ

21世紀より2000年のほうが印象深い ●田中量平 ②/④

世界中を旅したい ●久保田裕美 ②/④

自分が本当に求めているものは何かを問い直していきたい ●北村真由美 ②/④

昔懐かしいものはいつまで残るんでしょうか ●中井裕子 ②/④

21世紀だからといって一言べつにありません ● ②/④

ボンバイエ、1・2・3・ダー！イノキボンバイエ！イノキズムバンザイ ● ②/④

過去現在未来と連なる未来が胸を張ってられるものであることを願う ●松井美里 ②/④

京都精華大学はあと何年つづいていくのか？環境社会学科はどうなるのか？ ●小松原孝義 ②/④

21世紀、21世紀とうるさすぎ！別にええやろ ●菅直樹 ②/④

これからは「こころ」の時代になる。そして日本文化を大切にしましょう ●堀統 ②/④

自分らしく生きることの大切さをかみしめたい！ ● ②/④

人と人との心や考えがもっとまとまり一つのものになってほしい ●岩田真徳 ②/④

腹、減った——。メシはどこ——。答えてくれ——。ねえ、誰か—— ● ②/④

未だ見ぬ我が子が「この時代に生まれて良かった」と思える時代にしたい ●松田馨 ②/④

自然派人間になろう。自然を大切に…… ● ②/④

やれるやれないより、やらなきゃいけない。——廃棄物ゼロ—— ●三宅沙知 ②/④

みんなで頑張る ● ②/④

みんな自分の色を持っていくといいよね ●松澤広平 ②/④

20世紀の見えない関係から、21世紀は見える関係へ！ ●わしみさちこ ②/④

人生は短いので、世界を旅することに決めました。日本にばかりいられない ● ②/④

22世紀の地球に、水と緑のあるように ●田上奈緒 ②/④

今と同じ様なスピードで物事が進んでいくって、すごいけど怖い気もする ● ②/④

幸せな生活を送れば何もいらぬです ●秀島希 ②/④

20世紀の問題をもちこさない約束はなかったことになりました ● ②/④

だいじょうぶ、まだいきてるよ ●八木清和 ②/④

市民はもっと政治などの勉強をし、日本の現代の政治を問い正そう ● ②/④

今日がダメなら明日があるさ、明日がダメならあさってがあるさ！ ●宮川真理子 ②/④

子供らの 素朴な瞳 消さぬよに 地球の景色 きえないように(短歌) ●200K122 ②/④

百年もの長い年月を一言で語るなんて絶対に不可能です ●相馬康介 ②/④

22世紀につなげる社会になっていけ ●大場明広 ②/④



タイムマシンでできましたか ● ②/④

HAPPYな世の中でありますように ●塩月知子 ②/④

水、緑、空気、空、宇宙、そして……保存 ●下向としか ②/④

ビバ！神戸！ ●濱田亜季 ②/④

いちゃりばちょうでい ● ②/④

新世紀もよろしくね ●藤村建介 ②/④

21世紀であいましょう ●岡本良太郎 ②/④

神戸へ行こう！ ●岩見彩 ②/④

日中友好バンザイ！ ● ②/④ [中国]

自然といっしょにたのしく生きていきましょう ●チェ チョー ワン ②/④ [韓国]

世界和平 ●胡維安 ②/④ [台湾]

人類が団結して全地球的な問題を解決することが当然なことになります ●グエン バントー ②/④ [ベトナム]

世界はグローバルになる ●リザル ヒダヤト シャー ②/④ [インドネシア]

ポジティブな考えをもって21世紀に向かって頑張りましょう ●ホセ ホンゴ ②/④ [フィリピン]

21世紀の地球を守りましょう ●ライン ②/④ [ミャンマー]

あの人が幸せになりますように ●宋元慶 ②/④ [韓国]

わかちあうことをおこたらずに ●金甫盈 ②/④ [韓国]

責任感を持って、自分の仕事や行動をする人がもっと増えてほしい ●朴眞模 ②/④ [韓国]

自分の中に潜んでいる可能性を見つけ、チャレンジして行きましょう ●李成淑 ②/④ [韓国]

自分が自分であるために自分の自分を探しつつ自分で自分の道を自分で歩く ●安食洋 ②/④

現代化の発展のためには環境との調和は切り離すことができない ●林梅 ②/④ [中国]

お前が行くから道になる。お前が行け。生きても生きて生きまくれ ●八木拓郎 ②/④

21世紀は遠いと思っていたがもう少しです。私の夢や希望も遠くはなく近い ●西富士学 ②/④

アートと人の関わりが飯を食うかの如く自然になるのはいつのことかしら ●田中洋喜 ②/④

自分を見失わず、社会に迷惑をかけず、大好きなことを思う存分にしよう ●緒方有希 ②/④

千年後は31世紀！めざせドラえもん量産 ●のびのび子 ②/④

風の流に乗って自分らしく生きる ● ②/④

たとえ世紀が変わっても自分はず変わらない ● ②/④

来年から100年に一体何が起るのか？楽しみでもあり不安でもある ●奥井智久 ②/④

世界末日の世紀末の危機がまわってる ●楊佳維 ②/④ [台湾]

ドラえもんの世界にまたひとつ近づきました。やった—— ●山田泰子 ②/④

今から80年以内にタイムマシンが発明されて万博に行きたいです ● ②/④

早いもんだア——…… ● ②/④

ごはんのまえにはいただきます。ごはんのあとにはハイごちそうさま ●テラシマ チエ ②/④

予測不能。なんでも速い。もうちょっとのんびりしよう ●大草敬介 ②/④

前と信じる方へ向き続けられる努力をしつつけたいと思う ●藤井由紀子 ②/④

22世紀までよろしくお祈りします。 ● ②/④

世界中が平和になって、それがずっと続くような世紀になってほしい ● ②/④

20世紀に生じた数々の問題が少しでも解決することを願いつつ…… ● ②/④

21世紀って、もうあと2ヶ月もしたらやって来るんですね。こわい…… ●山内裕美 ②/④

いままでどおり頑張ります ●栢菅浩 ②/④

長寿を願うべからず ●楠原隆弘 ②/④

エイキツアン、おなかのピロピロなおしてピンピンで ●羽田誠司 ②/④

ドラえもんに会いたい ● ②/④

20世紀のツケをはらわれないといけないのではないだろうか ● ②/④

きざしが見える時代になってほしい ● ②/④

「温故知新」——あまり1人で未来につつまらないで欲しい ● ②/④

「私全盛！」だといいなあ ● ②/④

すぐそばに来ているという日々の中に確実に未来(ゆめ)があることを実感した ●去川幸子 ②/④

21世紀ばんざい。ステキな世界でありますように。ピース ●塩崎と藤原 ②/④

常に周りに興味を持ち夢見ることを忘れずに。自分らしく生きる ● ②/④

良くも悪くも、21世紀の初めには人々は何か「愛」の様なモノを求めよう ●西谷浩二 ②/④

ドラえもんに会いたい ● ②/④

20世紀のツケをはらわれないといけないのではないだろうか ● ②/④

きざしが見える時代になってほしい ● ②/④

「温故知新」——あまり1人で未来につつまらないで欲しい ● ②/④

「私全盛！」だといいなあ ● ②/④

すぐそばに来ているという日々の中に確実に未来(ゆめ)があることを実感した ●去川幸子 ②/④

21世紀ばんざい。ステキな世界でありますように。ピース ●塩崎と藤原 ②/④

常に周りに興味を持ち夢見ることを忘れずに。自分らしく生きる ● ②/④

良くも悪くも、21世紀の初めには人々は何か「愛」の様なモノを求めよう ●西谷浩二 ②/④

ドラえもんに会いたい ● ②/④

20世紀のツケをはらわれないといけないのではないだろうか ● ②/④

きざしが見える時代になってほしい ● ②/④

「温故知新」——あまり1人で未来につつまらないで欲しい ● ②/④



自分のことが不安で一杯

♂/④

輝け日本

●高野 俊介 ♂

これからも地球はちゃんと青く輝き続けることができるのでしょうか……

♀/①

20世紀の残したマイナスを21世紀はどこまでプラスに変えられるのだろうか

♀/①

全身スーツ宙に浮くマイカー火星に別荘。そんな時代が来るのだろうか

♀/①

環境がどう変化しようと、心はひん曲げず、生きてゆきたいと思います

♂/①

色々な色の個性を主張しあって調和できるような21世紀になる

●いち ♀/②

やりたいことして、おいしい物沢山食べて大好きな人々と幸せでいたいなあ

●坂口 詠子 ♀/④



22世紀までとても生きる事はできそうにもないので末長くよろしくお祈いします

♀/②

きれいに老けてかっこいい社会人になりたいなあ

●高森 景子 ♀/②

ドラえもんもアトムもまだだけど、それまで地球がもつかしらん?

●清水 直子 ♀/②

駄菓子は絶対失くしてはならぬ物。子供時代のライフスタイルは守ってください

♂/⑤

これからの時代自分をキチンともたなきゃいけない。私はマンガバカになる

♀/⑤

ピンボーだっていいじゃない。来世紀も白メシとミソ汁でいってこよう

♀/⑤



21世紀の私もお腹へってる?今の私はとっても腹へりなのよ

●佐野 浩美 ♀/⑤

変わっていく私と変わらない私。この二つといい具合に共存していきたい

●高見澤 蘭 ♀/⑤

実行委員です。21世紀もさらに祭をおもしろくするつもりなので、よろしく

●助野 嘉昭 ♂/⑤

知識を増やすための時間をおしまず、自分が大きく成長するようにがんばる

♀/⑤

21世紀へひとこと。

【学生105人アンケート】

安曇川の源流針畑川上流に三國岳がある。ブナの原生林の水は、遠敷川となり小浜湾へ。由良川となり舞鶴湾へ。そして、針畑川は安曇川となり琵琶湖にそそぐ。栃の木やべべの木など、豊かな里山が村の暮らしをささえつづけてきた。

敗戦後の高度経済成長により何百年かけて蓄積されてきた里山の地域文化が途絶え、それにかわって私たちは何を得たのか。農作業や山林での道具、ワラや蔓など身近な自然素材で作られた手工品、麻の栽培から織りにいたる道具など、家族の生活の蓄積が、朽木村針畑川流域の各集落で続いた証である。自然環境から生まれた「知恵」のかたまりであるこれらの道具を通して、村の人びとの声に耳を傾け、生活史の聞き取りとしてすすめてきた。

前作「べべ」以降の針畑の村の変容を見つめながら10年が経過する。親しくしていたお年寄りたちが村を離れて行く。かつて、トチの実を深山から運び出し、マチへ売り出す運搬用の麻製の袋を「八尺袋」という。各家には、柿渋や藍で染められた

記録映画「ハルとの」制作を終えて ●朽木村針畑の生活記録 4 制作/針畑生活資料研究会

袋が大切に残されている。八尺の布を90度ねじり縫いつけていくところからネジリ袋とも呼ばれ、魅力的なデザインとなっている。木綿が普及するまで、麻が主な衣類として自家製で作られていた。麻布のことを「のの」と呼ぶ。雪が解け春になると、麻は1軒に4〜5畝ほど栽培され、織りにいたるまで、村の女たちの仕事である。

針畑で生まれ、93歳で他界した1人の女性「ハル」さんの映像記録から映画は始まった。彼女は亡くなる数カ月前まで、家計簿に1日1行の日記を残していた。天候のこと、畑のこと、家族のこと、村のことなど、日々の暮らしぶりが、四季の移り変わりとともに記されていた。

映画は、麻製の衣類や八尺袋ができる1年の仕事の流れと、山村で生涯を終えた女性の日記を織り込み、針畑のあたたかな人と動物と草木の交流を描く。1991年から1999年までの記録。

芸術学部 デザイン学科 丸谷 彰

「アフリカ・マラウイ湖での環境社会学」

研究

「アフリカの湖国・マラウイ」という文字を同僚から借りた本で見たのが1994年。1960年代末、学生運動のさなか「植民地的侵略の手先」と批判されながらも、アフリカへの思いが断ちがたく、東アフリカの村で数カ月をすごした。それから二十数年。アフリカへ行きたい、それも湖のあるアフリカへ、という思いに火をつけてしまったのが「アフリカの湖国」という文字だった。

1970年代末以降、子育ての期間、足下の「日本の湖国」琵琶湖の研究にのめりこんだ。琵琶湖といっても水質や生物そのものではない。琵琶湖辺の人びとが、水利用や漁業、水害などでいかに水や湖とかわって来たかということに、社会学・人類学の視点から接近した。琵琶湖周辺には何百年、何千年という長い歴史のなかで、巧妙に入り組んだ水の文化を育んできた地域社会があった。その維持管理のシステムを地元の人たちから教えてもらった。私の共同研究者は地元の人たちだ。

1996年以降、幸い国際協力事業団の研究協力グループにいられたが、毎年マラウイ湖にでかけている。マラウイ大学の人たちと湖辺の村に住み込み地元の人たちが何に関心をもっているのか、聞き取りをしてきた。わかったことは「食への関心の深さ」だった。人びとはいつも「何を食べるか」を大変気にしている。そこでまず食文化を通して、湖と人間のかかわりを研究することにした。

そこでの発見は? マラウイ湖には1000種類ほどの魚や貝類が生息しているが、好きな魚貝類と嫌いな魚貝類は大変はっきりしている。ほとんど誰も口にしないのが「すべての貝類」と「ウナギ」。「ナマズ類」は「大好き」という人と「絶対に口にしない」という人たちとに別れ、いわば「両義的な魚」。異なった環境の元での「食」は環境社会学のひとつの重要なテーマでもある。食を支える地域社会組織も重要だ。漁業権のような所有と利用の規則も奥が深いテーマだ。マラウイの村でも「何でそんなあたり前のことを調べるの?」と疑問をもった村人の中に共同研究者が生まれつつある。京都精華大学の学生さんの中からアフリカをフィールドとする人が育ってほしい。これからが楽しみだ。

人文学部環境社会学科 嘉田由紀子

制作

卒業生は今

西村正幸さん

1981年美術学部デザイン学科卒
名古屋芸術大学版画研究室助教授



早いもので、関西から名古屋に移り、12年と半年が過ぎました。関西に生まれ育ち、30年間慣れ親しんだ場を離れ、まして誰ひとり知る人のない名古屋に拠点を移すのは勇気がいりました。しかし、家内も大阪での仕事を辞めるという前向きな姿勢で後押ししてくれたことは、心強いかぎりでした。

こうして、名古屋芸術大学版画研究室での「専任講師一人所帯」が始まったのが、30歳の時でした。現在京都精華大学版画研究室におられる武蔵篤彦氏が、版画コースの立ち上げまで関わってくださったので、版画コースがスタートする前年に後任として赴任した私は、随分助かりました。また、関西から来た「若いのが」一人で悪戦苦闘している、ということで、他科の先生方にも随分助けていただきましたが、今では6名の非常勤講師と1名の技術事務員の助力を得て、3年以上の専攻学生だけで、50名弱の学生をかかえるまでとなり、専任一人のコースとしては大所帯となっています。

また、作家としての活動の場も、当然名古屋を中心に広がり、関西とはまた違った視点で美術を見ようとする人々との出会いがあって、私の個人的な物づくりの姿勢を理解していただける幸いを感じています。ですから先日、1999年度の名古屋芸術奨励賞

をいただいた時の授賞式では、「やっと名古屋人になれたんや、と感じています」と大阪弁で感想を述べさせていただくことができました。

しかし、名古屋に移れども、母校京都精華大学のことは、折に触れ、個人的な感慨として思い出されるだけでなく、学生を抱える一教師としての立場からも、その話題性や動向に目を離せない存在でもあります。

さて最近、私のうちに起こっている変化がひとつあります。それは、許容量が大きくなってきたことです。以前は、作品講評会などで、かなり断定的に語っていたのが、学生たちの作品を見て、「この子たちにとって、これもありかな」と思って認めてしまうことが多くなってきました(ただ、頭でっかちで口だけであったり、いいかげんにしか作っていない学生には、相変わらず厳しい語調で泣かせてしまいますが)。これは、年齢と共に益々、自分が無知であることが思い知らされ、偉そうに断定などできないと、つくづく思うからです。ただ、三島由紀夫の「永すぎた春」ではないけど、理解のない大人がいる方が、新世代を育てるエネルギーになるようにも思うので、ただ今悩み中です。

古川勝也さん

1992年人文学部人文学科卒
コンパックコンピュータ株式会社:
ソリューション企画推進本部
Linux Program Office Director



早いもので、人文学部の一期生として社会に出てからもうすぐ八年になり、学生生活がはるか昔のように感じられます。毎年、京都精華大学を訪れているのですが、我々が過ごしていた頃と比較すると同じ大学とは思えないほど設備面等の充実には目を見張るものがあり、うらやましく思えてきます。大学の環境も大きく変わったように、私も仕事に就き、そこでの変化もまた大きなものでした。

私は今、外資系のコンピュータメーカーに勤務しています。私達の業界(IT業界と巷では言われている)では時間の流れはドッグイヤーと言われており、通常的一年で四年分の変化が起きると言われています。実際はもっと早く変化が訪れているように感じながら日々を過ごしているのですが、IT業界の企業は栄枯盛衰が激しく、非常に新陳代謝が激しく行われているという特徴があります。そのような業界ですから、ひとつの会社に留まるというよりもこの業界全体でひとつの会社のような感じで人の流動がお

きています。人材の流動と技術革新によって常に新しいことが起きている、その最前線で仕事ができるということは、知的好奇心を刺激され非常に遣り甲斐があります。反面、どこまでこの変化に耐えていけるのか不安にも似た感覚を覚えることがあります。「競争することを楽しむ」ことが出来るようになれば、居心地が良くなります。US本社の人達と打ち合わせる度に、この競争を楽しむ場面を目の当たりにします。

現在、私が携わっているマーケティングという仕事上、海外とのやり取りも多いのですが、大学でのフィールドワークの経験も生きています。海外の同じ大学生と触れ合えたことで、海外コンプレックスのようなものが払拭されたのが大きかったですね。

これからも、京都精華大学がさまざまな才能を生み出すインキュベータとして、自由な思索、創作の場を提供し続ける存在であることを願っております。

受賞

【洋画】

インディーズムービーフェスティバル
／グランプリ作品(美術監督)宮下忠也(大学院1年)
第11回関口芸術基金賞/入選…真鍋沙織(大学院1年)
第54回二紀展/入選…大西浩仁(79年度生)

【日本画】

日春展/奨励賞…松浦文子(89年度生)
春季企画展/春季展賞…黒住 拓(84年度生)
京都日本画家協会展
／協会賞・京都文化博物館賞…劉銘義(92年度生)
／京都府知事賞…松浦文子(89年度生)
／読売新聞社賞…濱本直和(同上)

【関西展】

／佳作…宮川典子(大学院2年)
／青光社賞…池原武志(同上)
兵庫2000県展
／神戸新聞社賞…三木 愛(大学院1年)
／佳作…武田修二郎(同上)

【青垣2001日本画展】

／大賞・文部大臣奨励賞…黒住 拓(84年度生)
／優秀賞…多賀竜一(90年度生)
／佳作…池原武志(大学院2年)
／朝日新聞社賞…三井亜紀(4年)
／神戸新聞社賞…細見朋子(3年)
／毎日新聞社賞…大塚和哉(大学院2年)

【立体造形】

第50回西宮市展(彫塑部門)
／西宮市展賞…村田直子(92年度生)
／西宮市長賞…森岡厚次(96年度・院)
／西宮商工会議所会頭賞…佐野耕平(98年度・院)
／西宮市展奨励賞…増野智紀(大学院2年)
第53回尼崎市展(彫刻・立体・工芸部門)
／市展賞…村田直子(92年度生)

【2000京都美術工芸展】

／優秀賞…森岡厚次(96年度・院)
全関西美術展
／2席…水元智久(82年度生)
／3席…津村健一(88年度生)

【第55回全関西行動展】

／奨励賞…森岡厚次(96年度・院)
／新人賞…二宮幸司(4年)
あかりのオブジェ展(岐阜県)
／審査員特別賞…神村厚代(3年)

【版画】

第51回京展/市長賞…高橋耕平(大学院1年)
VOCA展2000/奨励賞…内藤絹子(89年度生)
PRINTS21/入選…勝島啓介(大学院2年)
第68回版画協会展/入選…杜 松儒(大学院1年)
第4回外国人美術展(アサヒビール芸術文化財団主催)
／入選…杜 松儒(同上)
昭和美術展/入選…杜 松儒(同上)
日本版画協会 KYOTO2000 版画展
／新人賞…杜 松儒(同上)
新説美術選抜展
／集治千晶(92年度生)/廣 貞淑(95年度生)/黒木美希(96年度・院)

【陶芸】

2000朝日陶芸展
／優秀賞…岸上秀一(88年度生)
／奨励賞…西田 潤(大学院1年)
朝日現代クラフト展
／入選…山本哲也(90年度生)/薄田直美(95年度生)/海老原利美(同)/岡野昭吾(同)/林 砂希(4年)
第3回出土磁器トリエンナーレ
／入選…久木 綾(大学院2年)
第2回現代茶陶展
／TOKI 織部銀賞…中井和仁(87年度生)
アマチュア陶芸コンペティション
／優秀賞…野村直城(3年)

【映像】

Mac Fan ムービーフェスティバル/優秀賞…小原慎也(96年度生)
第2回京都メディアスケープ学生賞
／インタラクティブ部門・奨励賞…武内舞利子(大学院1年)
／映像部門・優秀賞…出口敦史(96年度生)
第11回京都広告賞(テレビCM部門)
／学生賞…宋 元慶(大学院1年)

【テキストスタイル】

京展
／京展賞…渡辺 操(96年度生)
／市長賞…稲垣成香(4年)
全関西美術展/第3席…金井大輔(4年)
岸和田市展
／市長賞…長岡庸仁(4年)
／市議会議員賞…金井大輔(4年)
守山市美術展/市長賞…松本美貴(大学院2年)
新匠会/新人賞…井上和郎(大学院1年)
国民文化祭
／実行委員会会長賞…冠野ゆきこ(86年度生)
／同…橋田健一(95年度生)
／佳作…北村佳子(86年度生)
岡山県美術展/奨励賞…北村佳子(86年度生)

【マンガ】

2000国際マンガ展(ニューヨーク国連本部にて開催)
／入選…鄭 仁敬(4年)

個展

2001年1月1日以降

【陶芸】

松本ヒデオ—1月/ギャラリーなかもら(京都)
—7月/ギャラリー器(京都)
—10月/目黒陶芸館(四日市)
奥村博美—5月/祇をん小西(京都)
—11月/ギャラリー玄海(東京)

【映像】

伊奈新祐—4月(ドイツ)
JAPANISHES FILMFESTIVAL FRANKFURT/M
NIPPON CONNECTION(日本コネクション)
—4月(東京写真美術館ホール)
MAO+Video Screening
—10月(関西ドイツ文化センター)
京都メディアアート週間2000

出版

2000年1月1日以降

【人文学部】

小椋純—
「里山を考ふる101のヒント」(共著/日本林業技術協会)
「共感する環境学」(共著/ミネルヴァ書房)
黒澤正一—
「環境マネジメントシステムを学ぶ学生のためのテキスト」(※仮称/ミネルヴァ書房/3月刊行予定)
薄田晶人—
「葬儀儀礼と合唱における死者の音声—アフリカ熱帯雨林での事例」(『講座 人間と環境11 自然の音・文化の音—環境との響きあい』山田陽一編/昭和堂/所収)
「Remarks on the war in the Democratic Republic of Congo In D. Goyvaerts(ed.), Conflict and Ethnicity in Central Africa. Institute for the Study of Language and Culture of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies」(『コンゴ民主共和国の社会福祉: 永遠の共生—エフェ・ビグミーの人生と死生観—』(『世界の社会福祉第11巻 アフリカ・中南米・スペイン』和崎寿子・宇佐美耕一編/旬報社/所収)

【田中貴子】

「仏像が語る知られざるドラマ」(講談社プラスアルファ新書)
「鈴の音が聞こえる—猫の日本古典文学誌」(淡交社)
山田重秋—
「日常性批判」(せりか書房)
吳 宏明—
「フィールドワーク『神戸と外国文化』」(『現場の学問・学問の現場』田中主治郎編/世界思想社/所収)
「神戸と外国文化」(国内フィールドワーク報告書)No. 7(編)
野上芳彦—
「人生の藝・心の藝」(60歳からの人生に輝き添えて)(青也書房)
「明るい社会づくり—運動30周年記念誌」(明るい社会づくり運動全国協議会/発行者/野上)

【芸術学部】

伊奈新祐—
「映像インスタレーション 映像パフォーマンス」by伊奈新祐 in「情報デザインシリーズ vol. 4: 映像表現の創造特性と可能性」(角川書店/5月発行予定)
「映像の展示とデジタル革命がもたらすもの」by伊奈新祐 in「Diatxt. (タイアテキスト02)」(京都芸術センター/10月発行予定)
●学生
はまのゆか(演野祐佳・マンガ4年)
「いのちのうた」(集英社/村山由佳/絵)

『『エコポイ』と祭』

「五月祭」と「木野祭」(大学院)に「エコポイ」として二度参加した。「エコポイ」は、柱となるものは変わっていないが、「エコポイ」自体はすくく変化していた。

「エコポイ」の主な仕事は、模擬店に皿を貸し出す、ゴミ袋を配布する、水場に洗剤を置く、廃棄するダンボールを業者の方に回収してもらう、といったことである。

「五月祭」ではこの他に、「カフェ」をやったり、ロウソクを作って配ったりいろんなことをやっていたので、あわたしき時間が過ぎていった。けっこうシンドイと思うことや、今から思うとうまくいかなかった部分も多々あった。

それは初めてということで要領がつかめなかったのだと思う。

「木野祭」では、「エコポイ」の仕事はそれとしてやり、あとは個々の時間を自由に過ごしていた。周りの反応も大きく変わった。みんな普通に「お皿を貸してください」「ゴミ袋をください」といった調子で来てくれるようになり、あたりまえの存在になっていると感じた。仕事自体はみんなのんびりやっていて、意外に思ったようにいかないこともあるが、「それはそれでいい」といった感じでことが運んでいった。

何か特別なことをやっているとは思わない。何かのために、誰かのために、仕事をやっているわけではない。普通に、あたりまえにやっていることだから続くのだろうし、義務とか責任だとかはあまり深く考えずに行動できるのだ。「自分がやりたいようにやる」というのが大きい。「エコポイ」で「これをやったらこうしないといけない」という決まりことはない。

「エコポイ」を一言でいうと「自由」だと思う。みんなにとって居心地のいい場所でありたい。メンバーも固定されていない。誰でもいつでも入りやすい。

枠がない。……そんな印象を受ける。常に同じということはない。その時々誰かの意見で変化し、自分たちでどんどん変えていける……そんなグループだ。

人文学部環境社会学科1年 幾田悠花

T O P I C S

「クラブ」の興隆?

今年、公開講座「音楽表現講座」が好評裡に終わったことをうけて、「クラブ」ガーデンをこれまで4回実施した。音楽に関心のある個人に音楽を楽しむ空間を提供することを目的に始めたものである。(たとえば軽音楽部の学生でも、参加する場合は、個人として関わる)参加者はボランティアである。

たとえばバンドの演奏では「楽器の演奏と歌」「聴衆」という形で、個性の発現が限定され、日常の制作や活動と乖離しがちである。それに対して「クラブ」イベントでは様々な形で学生の参加が可能である。

これまでの「クラブガーデン」では、「ディスクジョッキー」は人文学部とビジュアル・建築の学生、「ビジュアルジョッキー」は版画・ビジュアル・建築の学生、「カフェ」の運営は「環境エコポイ」(大学祭などでゴミの収集・分別を行っているボランティアグループ)の学生を中心に、人文学部・版画、会場や出入口の装飾は日本画などの学生が担当している。

今後は、陶芸の学生に食器制作を依頼したり、他の分野の個性をとりいれりして、全学横断的に関与できる企画が考えられる。つまり、人文学部と芸術学部の学生の個性を発揮できる場と機会を設けることが可能である。

また、フリーペーパーを発行して、自分たちの発表の場にしたりコミュニケーションを図ったりしている。

過去4回の参加者は70名、200名、250名、150名(4回目は雨のためか少なかった)であるが、3割から4割が他の大学生を中心とする若者である。

こうして「クラブ」ガーデンを実施する過程でいろいろな副産物がうまれた。いくつか挙げてみると

- ①学生の社会参加の契機になっている
イベントの拡大につれて社会化をとまなう。様々な交渉や運営に関する問題の解決が必要になる。またプロの仕事を見て学ぶ機会にもなる。
- ②人文学部と芸術学部の交流がうまれている
いろいろな学科・分野の学生がそれぞれの個性と能力を発揮できる場となっており、イベントの成功に向けて能力の分配と協力が行われている。
- ③個人的活動を行っている学生の学内における活動の場ができた
これまで学内にこうしたイベントがなかったため、学外の場所を借りる必要があり、かなりの費用を必要としていた。また、その活動は学内の者には見えにくいものであった。
- ④外部との交流の契機になっている
参加者の目標になるようなプロ・セミプロの人々を招くことでスキルアップを図ることができた。また、外部の学生やNGO団体がそれぞれの役割をもちよっての参加を表明するなど、イベントを超えた活動になりつつある。
- ⑤大学広報としての役割もある
大学の活動としてはかなり異色であるためいくつかのマスコミも関心を示している。また、イベントが学外で認知されることにより、公開講座や大学の広報としても活用可能なツールとなっている。

このような「クラブ」方式(形式)は若い人たちの間に浸透し広がっているようである。かつてのサブカルチャーのような存在になるのだろうか。あるいはひとつの文化として定着するのだろうか。注目したい。(S)

京都精華大学に関する問い合わせ先一覧

証明書申し込み・単位取得状況・資格取得・京都の伝統美術工芸講座	●教務課	(075)702-5119
海外フィールドワーク・国際交流など	●国際センター	(075)702-5199
図書・AV資料に関する事項および情報館利用など	●情報館	(075)702-5137
展覧会などの催し物・「本野評論」・アセンブリーアワー講演会・公開講座など	●文化情報課	(075)702-5343
教育後援会・父母懇談会・その他大学全般に関すること	●企画課	(075)702-5201
京都精華大学ホームページ	●http://www.kyoto-seika.ac.jp	